

0. 構想策定にあたって

■構想策定の背景と目的

草津市南部のびわこ文化公園都市周辺エリアについては、名神高速道路等の広域的な道路ネットワークに加え、医療・福祉・学術・産業等が立地する恵まれた環境を有している。

これらのポテンシャルの有効活用を図り、当該エリアを「滋賀県の新たな玄関口」として機能させ、当該エリアを含む滋賀県南部エリアの活性化につなげるよう、関係機関との連携協力のもと、まちづくりのあり方にかかる「草津PAと連携した滋賀県南部エリア活性化基本構想」を策定するものである。

なお、基本構想の策定にあたっては、上位計画である南草津エリアまちづくり推進ビジョン、国による交通拠点調査や滋賀県によるびわこ文化公園都市将来ビジョンの見直しとも整合を図っていくものとする。

1. 対象エリアとまちづくりの目標 (上位計画)

■【草津市】南草津エリアまちづくり推進ビジョン(R3)抜粋

○目標

1. 大学・企業・地域の活力が持続的にあふれだすまち
2. 誰もが豊かな環境と利便性を享受し安全・安心に住み続けられるまち
3. 充実した都市空間・交通環境で多様な交流が生まれるにぎわいのあるまち

○基本方針

1. 活力 大学や企業等の立地集積を生かした産官学連携による魅力あるまちづくりの推進
2. 住環境 豊かな地域資源を生かした安全で快適な住環境形成と地域主体によるまちづくりの推進
3. 交流 びわこ文化公園都市周辺における拠点性の強化と適切な都市機能の配置の推進



4. 関連計画および周辺動向

■【滋賀県】びわこ文化公園都市将来ビジョン(R4見直し中)

▶6つの将来像

- 県内外の人が交流する場
- 文化・芸術を創造する場
- 持続可能な社会へ挑戦する場
- 歴史と暮らしを紡ぐ場
- いのちと健康を支える場
- コミュニティを育む場

▶プラットフォームの設置

- 移動の自由 (公共交通) 誰もが「行きたい場所」「行きたい」に「自由に移動できる」エリア/新たなモビリティの導入可能性を検討するエリア
- 理解の共有 (情報発信) 知りたい情報へ容易にアクセスでき、瞬時に情報が共有・活用されるエリア/社会の変化や技術革新の進展に対応し、ICT およびデータの利活用を推進するエリア/人と人のつながりを大切に、誰もが情報を発信・共有・活用できるエリア

■大学の動向

- ▶立命館大学の学部新設・移転
 - H30食マネジメント学部設置 (約1,200人)
 - R6情報理工学部が転出予定 (約2,000人)
- ▶龍谷大学のキャンパス再編
 - R6社会学部移転および神学部設置検討

■道路ネットワークの整備

- ▶新名神高速道路延伸 (城陽～大津、R6予定)
- ▶山手幹線～国道1号栗東水口道路の延伸 (R7予定)

■新県立体育館の整備

滋賀ダイハツアリーナ (Bリーグクラブ「滋賀レイクス」本拠地) が完成 (R4.12)

■びわこ文化公園内でのPark-PFI活用

Park-PFIを活用した公園利用が開始予定 (R5春)

2. 現状

にぎわい・活力

【ポテンシャル】

- 対象地2km圏に約4.5万人が居住
- 立命館・龍谷・滋賀医科の3大学12学部が立地し、2万人以上が在籍
- 製造・物流をはじめ多様な業種の企業が集積
- びわこ文化公園には年間約30万人が訪れる

【問題点】

- 日常的に利用できる利便施設や交流施設が少ない
- 施設の利用経験がびわこ文化公園都市としての認知につながっていない
- 広域的な公共施設が多数立地しているが、利用者数は伸び悩んでいる
- エリア来訪時の目的施設以外への立ち寄りが少ない
- 飲食・物販等の立ち寄り施設が少ない

安全・安心・防災

【ポテンシャル】

- 滋賀医科大附属病院をはじめ、800床を超える病床と多数の診療科が存在している
- エリア周辺には多様な福祉施設が集積
- 相対的に災害リスクが低いエリアである
- 道路ネットワーク結節点に近接していることから、救援活動や物資輸送等、災害時対応の拠点となり得る

【問題点】

- 病院や福祉施設等、防災施設と連携できる機能は多数立地しており、避難者や広域支援部隊の受け入れ機能への要請がある
- 災害時、JR不通時に代替の公共交通手段がない

交通・交流

【ポテンシャル】

- 公共交通・高速道路ともに、大阪へは1時間半弱、京都へは40分程度、名古屋へは1時間半程度の距離にある
- 名神高速は約12万台/日の交通量があり、草津PA下り線の駐車可能台数は229台
- 草津PA周辺には平日で300台以上、休日で350台以上の高速バスが通過している

【問題点】

- 朝夕を中心に国道1号や南草津駅周辺の渋滞が慢性化し、エリアに居住する周辺都市 (大津市等) への通勤・従業者によるマイカー通勤に影響を与えている (国道1号: 約22,000台/日、平野草津線: 約9,000台/日、市内の主要渋滞: 11箇所6区間)
- 朝夕を中心に道路渋滞によりバスの定時性が損なわれ、サービス水準の低下が生じている
- エリアへは複数の事業者によるバス路線が乗り入れているが、需要に対して本数が限られており、バス車両内が混雑している
- 路線バスによるエリアの回遊がしにくい

3. 課題

エリアの一体としてのにぎわいが不足している

▶連携、交流

施設間連携や交流を促進する機能に乏しく、一体の拠点としての認知や広がり不足している

▶滞在、魅力

サードプレイスとなる施設が乏しく、各施設の単独利用にとどまっている

防災拠点としてのポテンシャルを活かせていない

▶広域支援

非常時に地域の安全・安心を支える広域支援機能への要請に対応できていない

▶リダンダンシー

エリアおよび周辺からの広域交通・輸送のリダンダンシーが求められる

エリアおよび周辺における交通の利便性・快適性が低い

▶道路交通

道路混雑により、びわこ文化公園都市エリア発着の自動車によるアクセスの利便性・快適性が低い

▶公共交通

エリア⇄京阪神のアクセスの一端を担う路線バスの定時性が低く、利用を敬遠

▶エリア回遊

びわこ文化公園都市内の回遊性(手段)が乏しい

5. 目標・基本方針

■目標■

滋賀県南部エリアの新たな玄関口として、交通環境が充実し、多様な主体による交流が生まれ、地域の活力が広域に波及することで、にぎわいと安全・安心を享受できるまち

■基本方針■

目標の達成に向けて取り組む基本方針を次の3つのおり定め、草津PAと連携し、それぞれに沿った具体的な取組により、にぎわいの創出、安全・安心の享受、交通環境の充実を図る。

にぎわい・活力

地域、大学、企業が交流し、地域外からの訪問者も集うにぎわいの創出

- エリアの住民、大学、企業の連携・交流の促進する機能の強化
- エリアの玄関口形成による地域情報発信、立ち寄り機能の強化

安全・安心・防災

集積した医療・福祉、道路ネットワークを生かした安全・安心の享受

- 医療・福祉施設と連携し、高速道路・草津PAと一体となった広域的防災機能の強化
- 高速バスの活用による広域公共交通・輸送のリダンダンシーの確保

交通・交流

新たな玄関口としての公共交通の利便性向上による、エリアおよび周辺の交通環境の充実

- 周辺道路および駅に集中する交通量の削減・転換
- 路線バスからJRへの利用環境の充実に加え路線バスと高速バスによる交通結節機能の強化 (公共交通利便性・快適性向上)
- エリア来訪時における回遊手段の確保